

子どもの交通安全教育は、家庭での繰り返しの指導が大切です！
子どもの特性を理解して指導をしましょう！

周りが見えていない

子どもは1つの物事に集中したり、感情的になると周りが見えない傾向があります。
また、大人に比べ視野が狭いため、大人からは見えていても、子どもには見えていないことがあります。



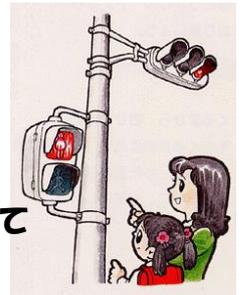
抽象的な言葉をよく理解できない

「危ないよ」「気をつけて」などの抽象的な言葉で指導しても分からない子どももいます。
何が危ないのか、どうして危ないのか、具体的な言葉で教えてあげましょう。

(例) 「右と左を見て渡るよ。」
「後ろや前から曲がってくる車はいないかな。」

1回では身につかない

子どもは一度教えただけでは、頭では理解していても、行動にうつせないことが多いです。
失敗しても、根気強く何度も指導をしましょう。



※指導をする際には
子どもと同じ目線になって
指導をしましょう。

車に同乗中の事故が多発！！

～シートベルトを正しく着用しましょう～

ベルトが首にかかっているか

ベルトがねじれていないか

カチッと音がするまで

骨盤を巻くように



小学生事故の6割は車両同乗中にケガをしています！

小学生になっても、身長が135cm以下のお子さんにはジュニアシート等を活用しましょう！
大人と同じシートベルトだけでは危険なことがあります。

